

新庁舎・(仮称) 新福祉社会館建設 基本設計市民説明会(1回目)	日時	令和2年2月13日(木) 19:00~20:20	場所	公民館緑分館 学習室A B
説明者	西岡市長、高橋庁舎建設等担当部長、今井公共施設マネジメント推進担当課長、前島福祉社会館等担当課長			
事務局	企画政策課 渡辺主査、小林主任、萩野主任 地域福祉課 山口主査 (受託者) 株式会社佐藤総合計画			
参加者数	14人(うち市議会議員3人)			
次第	1 開会 2 市長挨拶 3 基本設計の経過報告について 4 基本設計(案)の説明について 5 質疑応答 6 閉会			
(進行: 渡辺主査)				
<p>1 開会 2 市長挨拶 3 基本設計の経過報告について 4 基本設計(案)の説明について 高橋庁舎建設等担当部長が3について説明を行った後、株式会社佐藤総合計画が4について説明を行った。</p> <p>5 質疑応答</p> <p><b>【市民A】</b> レイアウトについて、学校教育と社会教育を1フロアにまとめるほうがいいと思うが、そのような検討はしているのか。学校と地域の連携について考えると、学校、生涯学習と子ども関係が1フロアで連携を取ったほうがいいと思う。</p> <p><b>【庁舎建設等担当部長】</b> レイアウトは、庁内で複数回ヒアリングを行い作成したものである。1階は市民が多く利用する部署を配置し、2階は(仮称)新福祉社会館との連携を考え、福祉保健部を配置し、3階は、税部門も市民が多く利用することから低層階が望ましいという考えがあり、税部門と子ども家庭部の他、生涯学習部等としている。教育委員会と子ども家庭部という配置案を庁内で示してきたが、生涯学習部と学校教育部は必ずしも同じフロアである必要はないという見解があり、このような設えとしている。</p> <p><b>【市民A】</b> 3階の生涯学習課に公民館本館の職員は入るのか。入るのであれば、何人を想定しているか。</p> <p><b>【庁舎建設等担当部長】</b> 公民館については、公民館の中長期計画を策定している最中と聞いており、中間報告において、公民館の本町分館を新庁舎の中に配置する考えが示されていることは認識しているが、入るかどうかは市の方針確定による。執務室レイアウトの前提として、現在の組織をベースに考えているが、今後の組織改正等に対応できるようユニバーサルレイアウトを採用しており、仮に本町分館の職員8人を配置するにしても、対応は可能であると考えている。</p> <p><b>【市民B】</b> 市報特集号の中に、株式会社佐藤総合計画がなぜ選ばれ、何が良かったかが書かれていない。また、バスが駅から真っすぐ来られないことについてどのように考えたか。</p> <p><b>【庁舎建設等担当部長】</b> 設計者の選考過程等については、5月15日号の市報特集号を発行しているほか、市民説明会も開催した。現在は、基本設計(案)取りまとめる段階として、市報特集号を作成し、市民説明会を開催している。庁舎への動線について、現在、地域公共交通会議でコミュニティバスのルート見直しを行っている。現段階では、敷地内にコミュニティバスのバス停を計画している。</p> <p><b>【市民C】</b> 建物の耐用年数はどのように考えているか。また、建物の形状が段上となっているが、メンテナンスはどのように考えているか。</p> <p><b>【株式会社佐藤総合計画】</b> 設備の定期的な更新をする等適切に維持管理を行うことで耐用年数は100年を想定している。段上</p>				

形状部分については、メンテナンスがしやすいような装置を設置して、維持管理費が下がる計画としている。

**【市民B】**

建物形状を上にしたがって大きくすることのメリットはなにか。

**【株式会社佐藤総合計画】**

ひろばをなるべく広くとりたいという要望に対して、現在の計画のように1階の建物の床面積を小さくし、ひろばをなるべく広くとるとしている。また、(仮称)新福社会館1階の一部をピロティとすることで通り抜けができる空間をつくることで、オープンスペースを広くとることができている。構造については、段上形状ではあるが、柱はまっすぐ通しており、バランスの良い計画としている。建物を計画する際に地盤に面する部分は、杭や基礎、掘削のコストがかかるため、1階部分を小さくすることで地下工事を少なくしてコストを抑える計画としている。

**【市民B】**

段上ではなく、3階以上をフラットにしたほうがメンテナンスしやすいのではないかと。

**【株式会社佐藤総合計画】**

メンテナンスコストは変わらないと考えている。また、一般的に建物をせり出させるには建設コストがかかるが、徐々にせり出す方が構造的にもバランスが良く、コスト面からも構造的にも合理的と考えている。

**【市民D】**

小金井ひろばの面積はどの程度か。(仮称)新福社会館の屋上庭園を活用した立体的なひろばとの提案だが、障がいのある人はエレベーターによるアクセスとなるのか。

**【株式会社佐藤総合計画】**

正確な面積は持ち合わせていないが、敷地の半分程度はオープンスペースとしている。オープンスペースを広くできている理由は、1階を小さくしていることと(仮称)新福社会館の1階をピロティとしていることである。(仮称)新福社会館の屋上庭園へのアクセスは、(仮称)新福社会館のエレベーターを利用してひろばへ出ることができる計画としている。仮にスロープを設置すると相当長くなり、車いす等の利用は現実的ではないと考えている。

**【市民E】**

(仮称)新福社会館は、旧福社会館と同じような使い方になるか。3階は福祉関係ではない設えと考えられる。また、(仮称)新福社会館の屋上には出られるのか。

**【福社会館等担当課長】**

1階は社会福祉協議会や多目的室、2階に複数の多目的室を計画している。その他、視聴覚室、印刷作業室や調理実習室を計画しており、旧福社会館公民館本館で行っていた活動もできるような設えと考えている。また、福祉総合窓口など福祉関係を配置している。3階は保健センターの機能を集約する計画である。4階の屋上庭園でも活用できる設えとしている。

**【市民D】**

既存の清掃関連施設はどこに移転する予定なのか。

**【市長】**

不燃系の清掃関連施設の再整備を環境部で進めており、空き缶、ペットボトル処理施設は貫井北町の中間処理場に令和6年度中に移設することを計画している。清掃関連施設の再整備及び新庁舎・(仮称)新福社会館建設事業は優先的に取り組むべき課題と認識している。

**【市民E】**

災害時、屋上にヘリコプター等が停まる想定はしているか。

**【庁舎建設等担当部長】**

災害発生時、庁舎は災害対策本部を設置する災害対策の拠点となる計画である。(仮称)新福社会館は、災害時医療救護活動拠点となるが、この場所で医療行為は行わない想定であり、ヘリポートの設置は想定しない。

**【市民A】**

図書館や公民館といった社会教育施設はどのように考えているか。

**【庁舎建設等担当部長】**

本計画では、いずれも設える予定はない。先ほどのご質問に対する回答のとおり、公民館は、中長期計画の中で、公民館の在り方を検討していくべきことであるが、中間報告として、公民館の本町分館を新庁舎の中に配置する考えが示されていることは認識している。しかし、公民館全体の話として確定しているものではなく、仮に本町分館の職員が入る場合であっても、ユニバーサルレイアウトで計画して

いるため、対応が可能な設えであると考えている。

**【市長】**

図書館は、空調や外壁の修繕を行ったことから、庁舎建設予定地内に図書館を設置する考えはない。現在の図書館を使用していく考えである。

**【市民B】**

屋根のある地下駐車場に思いやり駐車場を配置したほうがよいのではないか。

**【株式会社佐藤総合計画】**

思いやり駐車場は、施設利用者が一番使いやすい場所に配置したいと考え、エントランスに最も近い位置に計画しており、2台は、雨に濡れないピロティ下に計画している。また、思いやり駐車場は大きいスペースが必要となるため、地下駐車場に比べて面積効率の良い地上部に計画している。

6 閉会

— 以上で、閉会 —

新庁舎・(仮称) 新福祉社会館建設 基本設計市民説明会 (2回目)	日時	令和2年2月14日(金) 19:00~20:20	場所	公民館貫井北分館 学習室AB
説明者	西岡市長、高橋庁舎建設等担当部長、中谷福祉保健部長、今井公共施設マネジメント推進担当課長、前島福祉社会館等担当課長			
事務局	企画政策課 渡辺主査、小林主任、萩野主任 (受託者) 株式会社佐藤総合計画			
参加者数	14人(うち市議会議員4人)			
次第	1 開会 2 市長挨拶 3 基本設計の経過報告について 4 基本設計(案)の説明について 5 質疑応答 6 閉会			
(進行: 渡辺主査)				
<p>1 開会 2 市長挨拶 3 基本設計の経過報告について 4 基本設計(案)の説明について 高橋庁舎建設等担当部長が3について説明を行った後、株式会社佐藤総合計画が4について説明を行った。</p> <p>5 質疑応答</p> <p><b>【市民A】</b> 旧福祉社会館には、公民館本館があったが、(仮称)新福祉社会館ではどうなっているか。 <b>【福祉社会館等担当課長】</b> 旧福祉社会館には公民館に加え集会室があった。(仮称)新福祉社会館では、これらを区分けせず、多目的室として、多くの市民の方が使えるスペースとして整備している。具体的には、1階に大きな多目的室、2階に複数の多目的室を計画している。その他、印刷作業室や調理実習室を計画しており、公民館本館で行っていた活動もできるような設えと考えている。</p> <p><b>【市民B】</b> (仮称)新福祉社会館竣工時と庁舎竣工時における駐車場の確保策はどのように考えているか。高架下の利用を考えているのか。 <b>【公共施設マネジメント推進担当課長】</b> 工事期間中の臨時駐車場の確保について、JR東日本八王子支社に申し入れをしている。具体の台数が明確になり次第、詳細な協議を行う予定である。高架下については、JRの所有地となっており、商業展開や事業展開を考えていると伺っているので、高架下に確保できるとは限らない。</p> <p><b>【市民C】</b> 太陽光発電はどのような機能を想定しているのか。また、非常時の電源確保に絞ったものなのか。 <b>【株式会社佐藤総合計画】</b> 建物の屋上部分にソーラーパネルの設置を想定している。今後の検討の中で増減することがあるが、現在、発電設備は80kWを想定している。平常時は、日常的に電気室に電気を供給し、災害時においても電気を使用できるよう計画している。</p> <p><b>【市民A】</b> 庁舎と(仮称)新福祉社会館の構造は異なっているが、庁舎と(仮称)新福祉社会館の重なる部分はどうなような設えとなるのか。 <b>【株式会社佐藤総合計画】</b> (仮称)新福祉社会館は耐震構造としており、柱と壁の耐力で地震に耐える構造としている。耐震構造は地面と接しているため、強度はあるが、地面と同じように揺れる構造である。庁舎は免震構造としており、ゴムの上に載っている構造のため、大地震の際に揺れが緩やかになる構造である。庁舎は、災害時においても機能維持が求められるので免震構造としている。庁舎と(仮称)新福祉社会館の間は地震時の揺れ方が異なるため、構造上、隙間を設けているが、動く蓋をつけることで日常的には問題なく使用できる計画としている。</p>				

**【市民A】**

平面計画の白い部分はなにか。

**【株式会社佐藤総合計画】**

吹き抜けを計画している。1階から3階までを吹き抜け構造としており、吹き抜け空間を通して、庁舎と（仮称）新福祉会館の活動内容が見えるような設えとしている。

**【市民D】**

職員や市民の食堂を設えれば、災害時の市民やボランティアの方々用の炊き出しの拠点として使えるのではないか。

**【公共施設マネジメント推進担当課長】**

食堂は計画していない。炊き出しについては、外構部分でかまどベンチを設けたいと防災部門からは要望として挙がっている。今後、どこにどう設えるかは費用対効果を見ながら検討していきたい。

**【福祉会館等担当課長】**

災害時の炊き出しのような大量な調理には向いていないと考えているが、障がいのある方の働くスペースとして、カフェの設置を計画している。

**【市民D】**

外構部分について、みどりのイメージが少なく感じる。みどりを増やすため、地上駐車場の中に植栽を置くなど、工夫はできないか。また、透水性のある舗装で車両の荷重に耐えられるのか。非常時に来るとであろう大きな車両の荷重に耐えられるのか。

**【株式会社佐藤総合計画】**

みどりについて、庁舎建設面の植栽は伐採するか移植する計画としている。大きな樹木は東側と南側に集中しているため、既存樹木は可能な限り残す計画としている。北側については今ある桜等の樹木を移植する計画としている。駐車場部分は災害時に大きな車両やテントを張るスペースとして使えるようなオープンスペースとして考えている。駐車場以外の部分については、透水性の舗装を想定しており、車両が入る部分は荷重に耐えることのできる計画としている。みどりについては、地上面以外についても（仮称）新福祉会館屋上に植栽を計画しており、みどりを感じられるイメージとしている。

**【市民B】**

6階の議場はどのような設えを想定しているのか。

**【株式会社佐藤総合計画】**

議会フロアは北側をガラス張りとして外がよく見え、明るいろビーとしている。北側は直射日光が入らないので、ブラインド等は閉めず開放的にするイメージとしている。議場について、市民は主に傍聴席を利用することとなるが、エレベーターを出て傍聴ロビーから入り外の景色も見ながら利用ができるように想定している。議会フロアについては、行き止まり廊下を作らず、回遊できるように計画している。委員会室なども一部ガラス張りにするなどして市民の方が活動が見えるような設えを想定している。議会フロアも、市民が入りやすいような設えを考えている。

**【公共施設マネジメント推進担当課長】**

6階の議会フロアについては、新庁舎建設における議会施設の在り方検討会において、議場の在り方、使い方等を市議会議員の目線から要望を伺っており、それらを設計者と共有し、整理していくことを考えている。

**【市民B】**

災害時の炊き出し用として調理実習室を想定している事例もあるが、そのような想定はしていないか。また、調理実習室内に災害時にだけ使用できる設備があってもよいのではないか。

**【福祉会館等担当課長】**

事例については確認しているが、現状のスペースでは難しいと考えている。調理実習室は、基本的に調理を通して交流していただく場であると考えている。

**【市民B】**

調理実習室を炊き出しに利用できない理由はなにか？調理実習室を転用できたらよいと思う。

**【福祉会館等担当課長】**

調理実習室は、大量調理の使用に適しておらず、災害時の炊き出しには向いていないと考えている。

また、本施設は避難所として計画していないので、炊き出しについては想定していない。

**【公共施設マネジメント推進担当課長】**

災害時炊き出しについて、他市の公共施設では、給食センターに調理ロボットを置き、活用している事例がある。新庁舎・（仮称）新福祉会館建設は、地域防災計画の避難所ではないことから、災害時の炊き出し機能は、想定していない。

**【市民E】**

他事例では、調理実習室の横に保育室を設え、窓を通してこどもたちの様子を確認できるよう設えているケースがある。調理実習室と多目的室の間に窓を付ける計画はないか。

【福祉会館等担当課長】

調理実習室と多目的室の間の壁は構造上厚い壁となっている。隣の多目的室は防音の部屋として考えている。

【市民F】

パッシブ手法や太陽光発電といった環境配慮について、従来の施設に比べてアピールとなるものについて説明いただきたい。

【株式会社佐藤総合計画】

この敷地は、環境配慮としては恵まれた敷地である。一番エネルギーを使うのは、空調であるが、一番影響を及ぼすのは西、次が東となる。東西に長い敷地形状から東西に長い建物形状となり、東西からの熱の影響は少なくなる。また、近隣建物のプライバシーの観点から、東西南面は、壁を主体としたデザインとすることで、断熱効率がよく、熱が建物に入りにくい計画としている。さらに、パッシブ手法等の導入を考えている。一般的な庁舎に比べ、40%程度はエネルギーが削減できると考えており、運用面の検討も踏まえ、将来的には50%のエネルギー削減を目指したいと考えている。

【市民F】

耐用年数、維持管理について説明いただきたい。

【株式会社佐藤総合計画】

設備の定期的な更新をする等適切に維持管理を行うことで耐用年数は100年を想定している。北面の段上形状部分については、メンテナンスがしやすいような装置を設置して、維持費が下がるような方策も考えている。

【市民F】

浸透枡が小金井市の特色であると思うが、敷地全体での雨水はどのように考えているか。

【株式会社佐藤総合計画】

庁舎部分の雨は地下に貯めて、トイレの洗浄水や植栽へ散水する計画としている。敷地内の雨水は浸透枡により浸透するように考えている。オーバーフロー分については、敷地外の下水道本管にゆっくりと水が出るように計画している。

6 閉会

— 以上で、閉会 —

新庁舎・(仮称) 新福祉会館建設 基本設計市民説明会 (3回目)	日時	令和2年2月15日(土) 14:00~16:00	場所	中町桜並集会所 集会室AB
説明者	西岡市長、高橋庁舎建設等担当部長、中谷福祉保健部長、今井公共施設マネジメント推進担当課長、前島福祉会館等担当課長			
事務局	企画政策課 渡辺主査、小林主任、萩野主任 地域福祉課 山口主査 (受託者) 株式会社佐藤総合計画			
参加者数	31人(うち市議会議員4人)			
次第	1 開会 2 市長挨拶 3 基本設計の経過報告について 4 基本設計(案)の説明について 5 質疑応答 6 閉会			
(進行: 渡辺主査)				
1 開会				
2 市長挨拶				
3 基本設計の経過報告について				
4 基本設計(案)の説明について 高橋庁舎建設等担当部長が3について説明を行った後、株式会社佐藤総合計画が4について説明を行った。				
5 質疑応答				
【市民A】 敷地内の路面の勾配はどうなっているか。				
【株式会社佐藤総合計画】 西側は土を盛り、道路側とレベルを合わせる想定としている。敷地内の勾配や段差はほとんどなくフラットな計画と考えている。				
【市民B】 小金井市は至る所に緑の公園がある中で、屋上庭園をわざわざ作る必要はないのではないか。				
【株式会社佐藤総合計画】 基本計画、市民ワークショップや市民説明会を行う中で緑やひろばに対する意見が多くあった。なるべく敷地に多くの緑を設けるため、日当たりのよい(仮称)新福祉会館の屋上にひろばとして植栽を置くことを計画している。				
【市民B】 災害時を想定し、太陽光発電といった創エネルギーは想定しているのか。				
【株式会社佐藤総合計画】 電気、ガスといった複数のエネルギーで計画している。建物の屋上部分にソーラーパネルの設置を計画しており、今後の検討の中で増減することはあるが、現在、発電設備は80kWを計画している。平常時は、電気室に電気を供給し、災害時においても電気が活用できるように想定している。				
【公共施設マネジメント推進担当課長】 電力は、国土交通省の官庁施設の総合耐震計画基準に照らし、2回線の引き込みを検討しており、災害時にも途絶えることのないよう設計していく考えである。				
【市民C】 敷地の外部からの歩行者の動線について、高架下を通ることはできるのか。				
【株式会社佐藤総合計画】 建物の主出入口は敷地の中央を想定している。建物へのアクセスとして、西側の緑中央通りからのアクセスも考えられるので、西側にも出入口を設けている。北側からアクセスした場合は、臨時駐車場と北側道路の間の横断歩道を通してアクセスすることもできる計画としている。				
【市民D】 小金井ひろば、駐車場、駐輪場の面積は、どの程度か。現庁舎の駐車場台数と駐輪台数は何台か。敷				

地周辺には、人口が密集しているにもかかわらず、公園がない。庁舎建設予定地は、周辺の保育園の遊び場や自治会のイベントで使われており、敷地内に広場を確保していただきたい。

**【株式会社佐藤総合計画】**

ピロティ空間を含めたオープンスペースとして、5,000㎡以上確保している。また、屋上庭園として約700㎡確保している。緑は、南側と東側に既存の樹木をなるべく残し、確保する計画としている。歩行できる部分のみの面積については今後示していく。

**【公共施設マネジメント推進担当課長】**

現庁舎の駐車台数は、本庁舎と第二庁舎合わせて約80台であり、駐輪台数は、約400台程度は止められる。

**【市民E】**

建設後は、暫定広場でボール遊びや自転車の練習等はできなくなるのか。また、それに対する対応はどのように考えているか。

**【庁舎建設等担当部長】**

現在、暫定広場を多くの方々が使用していることは理解するところではあるが、庁舎建設予定地に新庁舎・(仮称)新福祉会館を建設し、一定の駐車台数を確保することを考えると、暫定広場のような使い方は制限されることはご理解いただきたい。その上で、この間設計を進める中で臨時駐車場を人が集えるひろばとしたり、屋上庭園を設えることとした。

**【市長】**

庁舎建設予定地として取得した敷地であり、庁舎建設までの間は暫定広場として活用してきた。現在、新庁舎・(仮称)新福祉会館建設の検討を行っている状況である。ひろばの利用は、本敷地に現状と同じような面積を確保することは難しく、同様の利用も難しい。本敷地以外の既存施設の活用や、今後のまちづくりの検討に合わせて考えていく必要があると考えている。

**【市民E】**

駐車場の台数の根拠はあるのか。また、緑中央通りの交通量が増えることによる通学路への影響は考えているか。

**【公共施設マネジメント推進担当課長】**

駐車台数は、現庁舎の駐車場台数と稼働率等を調べ、通常期の月平均で30%程度、繁忙期の時間帯によっては40%を超えるような状況を確認した。稼働率や今後の繁忙期、(仮称)新福祉会館の利用等を考慮すると、駐車台数は一定増えていくものと考えている。また、前面道路の交通渋滞を回避するためにも一定の駐車場台数は確保すべきと考え、設計者と協議し、現在の計画とした。

**【市民F】**

庁舎と(仮称)新福祉会館の構造形式が異なるものを重ね合わせることでデメリットはないのか。

**【株式会社佐藤総合計画】**

庁舎は、発災時にも機能を維持しなければいけないため、免震構造としている。(仮称)新福祉会館は、耐震構造としている。免震構造はゴムの上に乗っているためゆっくり揺れ、耐震構造は地面の上に建っているので、耐震性は確保されているが地面と同じ揺れ方をする。ふたつの建物の揺れ方は異なるため、免震構造と耐震構造の接している部分は60cmほどの空間があり、揺れの違いを解消する計画としている。建物が接している空間はエキスパンションジョイントというふたを設置することにより、利用には影響のないような計画としている。

**【市民G】**

隣のマンションに住んでいる者だが、マンション敷地の通り抜けが気になる。武蔵小金井駅から、緑中央通りまでのJR高架下の開発行為についての協議状況はいかがか。

**【公共施設マネジメント推進担当課長】**

所管部署が異なるが、JR東日本八王子支社と開発に向けた協議は継続して行っていると伺っている。

**【市民H】**

概算費用84.4億円の内訳を教えてください。基本設計での概算と実施設計での概算のブレは大きくあるのか。

**【株式会社佐藤総合計画】**

庁舎、(仮称)新福祉会館、Ⅱ期工事までの外構整備を含めた概算費用である。現在の建設物価を加味した基本概算を行っている。基本設計から実施設計のブレは1割以内に抑えられると考えている。ただし、建設業界の状況から言うと、建設資材は上がっているのは事実であり、働き方改革に伴い人件費は高騰している。実施設計の中で建設物価を注視し、検討してまいりたい。

**【市民I】**

地下の深さはどのくらいか。

【株式会社佐藤総合計画】

地下は5mの階高を想定している。その下に、地中梁が2mほどあり、合計7mほどを想定している。地中梁の間を利用し、雨水貯留槽を設置することを考えている。

【市民I】

地下水が地下10mくらいの位置を通っており、建物が地下水を遮断することはないか。また、工事期間に遮断することはないか。

【株式会社佐藤総合計画】

建物が地下水を遮断することはないと考えている。山留壁についても大きくないため影響はなく、工事終了後は抜くことになる。

【市民I】

雨水を地下に浸透させる考えはないか。

【株式会社佐藤総合計画】

庁舎の屋上の雨水は、貯留し、再利用する計画としている。地面に降った雨水は、浸透するよう計画している。浸透枳については、大きな浸透枍をつくるのではなく、小さな浸透枍を浅い建物際に埋める想定としている。オーバーフロー分は、緑中央通りの下水本管へ流す計画としている。

【市民I】

中水槽はどの程度の水が貯められるか。

【株式会社佐藤総合計画】

中水槽は200m<sup>3</sup>程度の水が貯められる計画としている。

【市民I】

小金井市の地下水及び湧水を保全する条例において、市の管理する公共用施設の整備に当たっては率先して雨水の地下浸透を図るものとし、自然な地下浸透を図るとしているが、今回の計画での考え方はいかがか。

【公共施設マネジメント推進担当課長】

地下水等については、地下水保全会議に意見照会することになる。また、まちづくり検討部会において、開発指導要綱や地下水保全条例での指導、助言をする体制を構築している。その上で、法規制等に沿った形で整備を進めていくことと考えている。昨年12月に開催した地下水保全会議にて、設計内容を説明し、意見を伺った。また、今後開催される地下水保全会議において、設計の進捗に合わせて、適宜、説明したい。

【市民J】

南側には窓がないのか。火災時の避難経路に問題はないのか。また、(仮称)新福祉会館の調理実習室と隣の多目的室は行き来可能なのか。

【株式会社佐藤総合計画】

南側は、プライバシーに配慮して基本的には壁を主体としたデザインとしているが、一部ガラスとし、光が入るように計画している。避難経路は、階段で行う。建物内の3つの階段と外部階段から避難できる計画としている。(仮称)新福祉会館の調理室の隣は視聴覚室となっており、防音設備のある設えを想定している。行き来については、検討していきたい。

【市民K】

できるだけ徒歩か自転車に来てほしいと呼びかけを行うなどの政策を掲げ、駐車台数を減らして、憩いの場を増やすことはできないか。

【市長】

駐車台数は、現状の実績等から算出したものである。公用車の削減に向けた検討を進めており、現在、当初の計画より2台削減できる見込みとなった。福祉の観点からも一定の駐車場台数の確保は必要だと考えている。その中で、ひろばを確保したいという市民の方々の意見があり、臨時駐車場として、通常時はひろばとして活用できるような空間を計画している。一方、コミュニティバスのルート見直しを行っており、庁舎建設予定地内に入れるようバス停を計画している。交通アクセスの利便性を高めていきたい。

【市民L】

防災について、吹抜けによる火災のニュースがあったが、吹抜けの火災対策はどのように考えているか。また、示されている概算費用は、人口に対して妥当な金額なのか。

【株式会社佐藤総合計画】

吹抜けには防火シャッターを設置し、火災時には速やかにシャッターが閉まり、煙が広がらないこと

を考えている。自然換気を促進するエコボイドも火災時は防火シャッターにより煙が広がらないように計画している。概算費用は、現在の物価を基にしている。庁舎は防災拠点となり、免震構造としているため、一般的なオフィスビルよりはグレードが高いものとなる。国土交通省による仕様に則っている。建設費は、実施設計においても物価変動等に注視しながら検討していきたい。

**【公共施設マネジメント推進担当課長】**

コストについては、設計者が算出した概算費用に対し、コンストラクションマネージャーにもご協力をいただき、周辺自治体での建設物価単価とも照らし合わせ、他市に比べ高いというわけではないことは確認している。また、労務単価は、平成9年度以降で最高値となっており、施工会社の作業員の単価も上がってきている。今後、実施設計等を通じて、概算費用の精度を高めていき、入札に耐えうるような金額を出していくことになるが、進捗に応じて、市の財政フレームの中でしっかりチェックしていきたいと考えている。

**【市民M】**

市報特集号の平面計画の縮尺はいくつか。

**【株式会社佐藤総合計画】**

紙面レイアウトに合わせて、サイズを調整しているのので、正確な縮尺は提示できない。

**【公共施設マネジメント推進担当課長】**

今後、基本設計の取りまとめに際して、設計者と調整を行い、縮尺が入ったものを市ホームページ等で公表できるように考えたい。

**【市民N】**

市民が学習や活動できるような場はあるか。

**【株式会社佐藤総合計画】**

庁舎と（仮称）新福祉会館の中央付近にマルチスペースを計画しており、そこではテーブルやいすを配置し、市民活動に使用できるようにしたいと考えている。1階の執務室カウンター前の待合スペースは、執務室とセキュリティをシャッター等で明確に分けることにより、閉庁時にも市民利用できる計画としている。

**【公共施設マネジメント推進担当課長】**

庁舎は午後5時15分に閉庁するが、（仮称）新福祉会館は午後10時まで開館している。1階部分の待合スペースは、閉庁時にも開放できるように、セキュリティの確保や管理運営を考えてまいりたい。

**【市民F】**

清掃関連施設が残っている段階での駐車場はどのようにするのか。

**【公共施設マネジメント推進担当課長】**

具体的に確定しているわけではないが、工事期間中の仮設の駐車場について、JR東日本八王子支社に申入れをしている。必要な台数、時期、期間等が決まった段階で詳細な協議を行う予定である。

**【市民C】**

災害ボランティアの活動の場として、各部屋の転用をどのように考えているか。

**【株式会社佐藤総合計画】**

（仮称）新福祉会館の多目的室等を市民ボランティアの活動拠点として利用することを計画している。

**【福祉会館等担当課長】**

災害時は、社会福祉協議会が災害ボランティアセンターを立ち上げる。多目的室を転用し、活用することを想定しているが、施設内だけで対応ができない場合のことも想定し、社会福祉協議会とともに検討していくものと考えている。

**【市民O】**

庁舎の南側から見えるのはマンションの出入口だけであるため、窓を増やしてもよいのではないか。

職員の労働環境というものも考えたほうがよいのではないか。

**【公共施設マネジメント推進担当課長】**

ガラス面を多くすると太陽光の反射等での光害も配慮していかなければならないと考えている。光の取り方については、建築基準法や事務所衛生基準規則等を踏まえた設計をしていく。

**【株式会社佐藤総合計画】**

環境配慮の面から、エネルギーを使わない建物にしたいと考えている。エネルギーをなるべく使わなくてもよいように、空調によるエネルギーを多く使うことになる南側については、壁を主体とすることで、環境面に配慮した計画としている。

**【市民P】**

(仮称)新福祉社会館にある福祉総合相談窓口は、どのような内容を想定しているか。

**【福祉社会館等担当課長】**

福祉総合相談窓口は、庁内で検討を行ってきており、昨年の10月に検討結果を出している。様々な課題を抱えた方に寄り添い、解決に向けて支援していく考え方は変わらない。生活困窮者の自立サポートセンターの機能を拡大していくことを考えている。コーディネーターのような形で包括化推進員を配置し、強化していく。令和2年10月から試行的に取り組み、(仮称)新福祉社会館竣工時に本格稼働する考えである。

**【市民F】**

災害には日頃の備えが必要と考えているが、ひろばで防災訓練ができないか。

**【公共施設マネジメント推進担当課長】**

市では、庁舎を防災拠点として、防災機能の強化を図っていくこととし、災害対策本部を設置し、発災時の機能転用も検討している。それらが、発災時に運用できるような訓練は必要になってくると考えている。

**【市民B】**

小金井市は人口が増えていくと思っているが、今後、人口が増えたとしても対応できる庁舎となっているか。

**【公共施設マネジメント推進担当課長】**

職員数は、平成31年4月現在の職員数を基準に設計を進めている。今後の人数の増減や組織改正等に対応できるようユニバーサルレイアウトを採用している。小金井市の人口は、増加傾向が続いている状況であるが、全国的には減少傾向にあり、将来的には、小金井市も人口減少、市税収入の減少等も考えていかなければならない。こうした視点を持ちながら検討を進めていきたいと考えている。

**【市民H】**

ランニングコストの想定はあるか。

**【公共施設マネジメント推進担当課長】**

ライフサイクルコストについては、設計者からの技術提案の中でも考え方が示されている。ランニングコストを標準型の庁舎と比較していくのか現庁舎と比較していくのか等、色々な比較の仕方があると考えている。どういった取り組みができるのかは設計者と協議してまいりたい。

**【株式会社佐藤総合計画】**

エネルギーについては、高断熱な建物とし、小金井の水や光や風といった自然を活用し、竣工後の使い方にもよるが、標準型の庁舎と比較して、約40%のエネルギー削減に取り組みたい。

6 閉会

— 以上で、閉会 —

新庁舎・(仮称) 新福祉会館建設 基本設計市民説明会 (4回目)	日時	令和2年2月15日(土) 18:00~20:30	場所	東小金井駅開設記念会館 ギャラリー
説明者	西岡市長、高橋庁舎建設等担当部長、中谷福祉保健部長、今井公共施設マネジメント推進担当課長、前島福祉会館等担当課長			
事務局	企画政策課 渡辺主査、小林主任、萩野主任 地域福祉課 山口主査 (受託者) 株式会社佐藤総合計画			
参加者数	14人(うち市議会議員1人)			
次第	1 開会 2 市長挨拶 3 基本設計の経過報告について 4 基本設計(案)の説明について 5 質疑応答 6 閉会			
(進行: 渡辺主査)				
1 開会				
2 市長挨拶				
3 基本設計の経過報告について				
4 基本設計(案)の説明について 高橋庁舎建設等担当部長が3について説明を行った後、株式会社佐藤総合計画が4について説明を行った。				
5 質疑応答				
【市民A】 駐輪場について、1台当たりの幅はどのくらいか。また、台数の根拠を教えてください。				
【株式会社佐藤総合計画】 駐輪場の幅は、ラックなしは600mm幅で、ラック式は、300mm幅を想定している。				
【公共施設マネジメント推進担当課長】 駐輪場の台数は、基本計画では300台としていたが、設計の前段階で見直した。武蔵野市は条例で延床面積45㎡ごとに1台という基準を設けており、これを参考に算出の上、市民の利便性を加味し、400台と設定した。				
【市民B】 子育て用の自転車は、ラックを使用しづらい。実情に合わせ、利用者に優しい設計をお願いしたい。				
【株式会社佐藤総合計画】 すべてをラック付きとする計画ではなく、子育て用の自転車等はラックなしの駐輪場の利用を想定している。西側に40台、東側に30台確保する計画としている。				
【市民C】 既存清掃関連施設の高さはどの程度か。ひろばや建物出入口へのアプローチに日が当たる計画が望ましいと考えているがいかがか。				
【株式会社佐藤総合計画】 詳細は不明だが、通常の平屋建物とすれば、4m程度かと思う。小金井ひろばは建物の北側にあるため、小金井ひろばに影は入る。既存清掃関連施設が稼働している状態で工事に入るという条件のもとで計画を行っている。ひろばの位置として、南側に配置するという考え方は、敷地南側が住宅となっているため、プライバシーの観点から好ましくないと考えている。一方で、北側については、JR高架下ということで公共建築の建ち方としては、ひろばを北側に設けることは適切であると考えている。建物のエネルギーは空調エネルギーが大半であり、南と西からの日差しをいかに遮り、省エネルギーな建物にするかが大切である。本計画では、エネルギーを消費しやすい南・西側は壁を主体とし、高断熱とすることで、省エネルギーとして、直射日光が入らない北側はガラス面としてひろばに開くことで、エネルギー効率のよい建物としている。				
【公共施設マネジメント推進担当課長】 平成29年度から平成30年度にかけて行った建設計画調査の中で、建設地の法規制等の整理を行ってきたが、その中で、北側のJR高架橋が工作物にあたることから日影規制がかかり、敷地の南東側に配置する案が関係法令等に照らして望ましい配置計画であると考えている。				

**【市民C】**

関係法令とは何か。

**【株式会社佐藤総合計画】**

建築基準法の日影規制の条文にかかってくる。鉄道については、緩和規定があるが、そこに工作物が建たないことが前提となる。今後、高架下を活用する可能性があることから、緩和規定を適用することができないと考えられる。

**【市民D】**

駐車台数の根拠を教えてください。日照等を考えると、地上駐車場が敷地の一番いいところにあるので、多目的ひろばとして、災害時に活用したほうがいいのではないかと。

**【公共施設マネジメント推進担当課長】**

駐車台数は、現庁舎の駐車台数と稼働率等を調べ、通常期の月平均で30%程度、繁忙期の時間帯によっては40%を超えるような状況を確認した。稼働率や今後の繁忙期、(仮称)新福祉会館の利用等を考慮すると、駐車台数は一定増えていくものと考えている。また、前面道路の交通渋滞を回避するためにも一定の駐車台数は確保すべきと考え、設計者と協議し、現在の計画とした。

設計上の制約について、既存清掃関連施設を残したまま、庁舎建設を行うことが前提となっており、一定の制約がある中での配置であることをご理解いただきたい。

**【市民E】**

庁舎屋上部分に都防災無線の鉄塔が設置される予定とのことだが、どの位置に設置されるのか。現状はどの位置に設置されているのか。

**【公共施設マネジメント推進担当課長】**

現在、本庁舎に東京都の防災無線が設置されており、田無タワーの電波塔と北多摩南部建設事務所の電波塔から受信する必要があると聞いている。新庁舎に移設するに当たり、周辺の高層建築物等の電波状況を考慮すると、地上45mの位置にアンテナを設置する必要があると確認している。設置位置等の詳細は検討中である。

**【市民F】**

この敷地は、駅から近く、中央線からよく見えるというメリットがあるが、これを活かした特徴的なことは検討しているか。また、市域の各エリアの市民サービスへの影響についてどのように考えているか。

**【株式会社佐藤総合計画】**

屋上のひろばは、高さが高架に近く、電車がよく見えるので、子どもが屋上庭園に来るなど、有効に活用できると考えている。庁舎においても執務室を南側として、ロビー・会議室部分を北側に配置することで、市民の利用や活動が電車からも見えると考えている。

**【市長】**

北側から市民活動がよく見え、ひろばの桜等小金井らしさが見える設計になっていると思っている。市域のほぼ中央に、庁舎と(仮称)新福祉会館を複合施設として整備し、総合的な行政サービスを展開できる施設を目指している。また、市域全体の市民サービスについては、コンビニで証明書等を取ることができるようになり、サービスは向上していることから、支所を作る考えはない。

**【市民F】**

コミュニティバスのルート変更を検討してほしい。

**【市長】**

現在、地域公共交通会議でコミュニティバスのルート見直しを行っている。現段階では、敷地内にコミュニティバスのバス停を計画している。

**【市民G】**

現庁舎は消防署の近くにある。他の自治体のように消防署の防災課を庁舎に入れてはいかがか。また、屋上にヘリポートの設置は検討しているか。

**【市長】**

消防署との連携は重要であると考えているが、庁舎に消防署機能を入れる計画はない。また、ヘリポートの設置は想定していない。

**【市民G】**

降雪時の凍結対策を考えてほしい。

**【市長】**

現在も降雪時には、市民が道路を利用しやすいよう、市職員が雪かき等凍結対策に取り組んでいるところである。新庁舎においても、市として、安全対策に取り組んでまいりたい。

**【株式会社佐藤総合計画】**

建築上の配慮としては、福祉会館1階ピロティ空間は、バス停からの建物へのアプローチを含めて、雨、雪、夏の強い日差しを避けることができるようにしている。また、出入口を西側にも設けることで、すぐに建物に入られるよう計画している。

**【市民H】**

重ね合わせることで生まれる交流の場という考え方について、相互利用がどのように活性化するか。

**【株式会社佐藤総合計画】**

今後の庁舎の役割を考えると、窓口での手続きは減り、一方で、相談や市民活動のニーズが増えていくと考えられる。多様な人々の利用が想定されるため、庁舎と（仮称）新福祉会館を一体的に整備することにより、相互の交流の様子を確認でき、活動が促進していくことを期待している。

**【市民I】**

シルバー人材センターのPC講習の場は（仮称）新福祉会館でできるのか。

**【福祉会館等担当課長】**

（仮称）新福祉会館にはシルバー人材センターが入り、作業場、学習教室等でも利用できるように考えている。

**【市民A】**

駐輪ラックの使用ルール作りは難しく、可能であれば全て平場がよいと思う。また、職員用の駐輪台数は何台と考えているか。駐輪台数は樹木をなくしてでも増やすべきだと考える。

**【公共施設マネジメント推進担当課長】**

管理・運営の方法も含めて、設え、台数を考えたい。後段部分は、意見として、承りたい。

**【市民D】**

オープンスペースは、多目的に転用できるように設計してはいかかがか。

**【株式会社佐藤総合計画】**

オープンスペースは極力段差をなくして、駐車場部についてもイベントや災害時にも使えるように計画している。

**【市民F】**

（仮称）新福祉会館の相談室等へのアプローチやプライバシーへの配慮の考えを教えてください。

**【株式会社佐藤総合計画】**

（仮称）新福祉会館は、エントランスを入ってすぐエレベーターに乗れる計画として、相談室はエレベーターに近接することでプライバシーに配慮した配置計画としている。

**【福祉会館等担当課長】**

（仮称）新福祉会館建設基本計画の中でも、福祉の相談はプライバシーに配慮することを明記しており、相談室は、エレベーターから目立たずに相談に行ける人目の付きにくい場所に設えている。

**【市民J】**

基本設計（案）の周知について、HP掲載方法や施設への設置方法について工夫をお願いしたい。

**【公共施設マネジメント推進担当課長】**

できる範囲で工夫してまいりたい。

**【市民J】**

説明会は体育館等人が多く集まる施設でまとめて行ってはいかかがか。

**【市長】**

説明会は、なるべく各地域で開催し、市民の方々がアクセスしやすいような会場で行うことが望ましいと考え、市内6か所で開催している。

**【市民E】**

現在の暫定広場は、子ども達がボール遊び等をできる場所として利用されているが、小金井ひろばでは、どのような使い方を想定しているか。また、駐車場は地下部分の台数で足りるのではないかと。

**【株式会社佐藤総合計画】**

庁舎と（仮称）新福祉会館ができることにより、障がいのある方や高齢者等様々な人々が訪れるひろばとなるため、現状と同じ使い方は難しいと考えている。

**【公共施設マネジメント推進担当課長】**

地上面も含めて、一定の駐車場台数は確保すべきと考えている。

**【市民B】**

防災計画について、どの程度の地震まで耐えられる計画なのか。また、災害物資の保管はどのように考えているか。

**【株式会社佐藤総合計画】**

震度6強にも耐えうる計画である。防災倉庫については、庁舎の機能が維持できるための備蓄を備えるよう設置を計画している。避難してきた市民の方は、地域防災計画で指定されている小中学校といった避難所に避難する。

**【市民K】**

暫定広場を利用している子ども達用に小さいポケットパーク等は作ってはいかがか。

**【株式会社佐藤総合計画】**

現状のひろばで利用されているボール遊び等と同じような使い方は難しいと考えているが、ポケットパークの設置は可能と考えている。こどもひろばやウェルカムひろばといったひろばを計画しているので、幼児といった子ども達が遊ぶことはできると考えている。

**【市民K】**

小金井ひろばとネーミングしているが、子どもを排除している印象を受ける。他の方策は検討していないのか。

**【市長】**

庁舎建設予定地として取得した敷地であり、庁舎建設までの間は暫定広場として活用してきた。現在、新庁舎・(仮称)新福祉会館建設の検討を行っている状況である。ひろばの利用は、本敷地に現状と同じような面積を確保することは難しく、同様の利用も難しい。本敷地以外の既存施設の活用や、今後のまちづくりの検討に合わせて考えていく必要があると考えている。

**【市民C】**

日影規制で北に寄せられないとのことだが、日影規制について教えてほしい。施設を北側に寄せ、明るいひろばを作るため、清掃関連施設を残したままという考えを改めてほしい。

**【公共施設マネジメント推進担当課長】**

鉄道敷については、日影規制の緩和規定があるが、高架については工作物であり、高架下に永久的に工作物を置かないという確約が取れれば、緩和規定が受けられる。高架下の利用については、JR東日本八王子支社と継続的に協議を進めているところであるが、高架下の活用についても検討していると伺っている状況である。

**【市長】**

新庁舎・(仮称)新福祉会館については、早期竣工が市議会において全会一致で採択された。旧福祉会館は、既に閉館・解体しており、(仮称)新福祉会館の早期竣工が必要であると考えている。また、庁舎についても本庁舎の老朽化、第二庁舎の賃借を踏まえ、早期竣工が必要である。そのため、新庁舎・(仮称)新福祉会館は最優先課題の一つとし、早期に解決すべきと考えている。施設配置については、様々検討してきており、清掃関連施設の暫定移設も検討したが、移設に1億6千万の費用がかかることから見送った経過がある。この間の検討の経過を踏まえ、清掃関連施設を現状位置に稼働させたまま、新庁舎・(仮称)新福祉会館を建設することを市の方針とした。

**【市民C】**

日影図は資料として作成をお願いしたい。また、清掃関連施設の暫定移設費用の1億6千万円は、全体比率で考えれば大きな金額ではないと思う。小金井は高層物が少なく、明るい街であり、小金井らしさは「光」だと思う。もう一度議論してでも再考すべきである。その決断ができるのは市長だけである。是非、再考をお願いしたい。

6 閉会

— 以上で、閉会 —

新庁舎・(仮称)新福祉会館建設 基本設計市民説明会(5回目)	日時	令和2年2月21日(金) 19:00~21:10	場所	公民館貫井南分館 学習室AB
説明者	西岡市長、高橋庁舎建設等担当部長、中谷福祉保健部長、今井公共施設マネジメント推進担当課長、前島福祉会館等担当課長			
事務局	企画政策課 渡辺主査、小林主任、萩野主任 地域福祉課 山口主査 (受託者)株式会社佐藤総合計画			
参加者数	8人(うち市議会議員3人)			
次第	1 開会 2 市長挨拶 3 基本設計の経過報告について 4 基本設計(案)の説明について 5 質疑応答 6 閉会			
(進行:渡辺主査)				
<p>1 開会</p> <p>2 市長挨拶 市長が、全景外観イメージ図について次のとおり発言した。 市報特集号並びに基本設計(案)に掲載している全景外観イメージ図において、実際の方角と異なる向きで影が表現されていた。閲覧いただいた皆様にご迷惑をおかけしたこと、お詫び申し上げます。現在、イメージ図の修正作業を行っており、正しい画像データの掲載が可能となり次第、市ホームページ上のデータについて順次更新する予定である。また、本日お示しするスライドは、修正したイメージ図である。今後の成果品の取りまとめに当たっては、細心の注意を払って取り組んでまいりたい。</p> <p>3 基本設計の経過報告について</p> <p>4 基本設計(案)の説明について 高橋庁舎建設等担当部長が3について説明を行った後、株式会社佐藤総合計画が4について説明を行った。</p> <p>5 質疑応答</p> <p>【市民A】 イメージパースの鉄道や近隣施設の縮尺は正しいものなのか。作成した際の条件は正しく記載すべきと考える。</p> <p>【株式会社佐藤総合計画】 鉄道に関しては、JRからいただいたデータをもとに作成しているため、縮尺は正しいが、ひろばと重なるため、イメージしやすいよう、加工している。近隣施設は、平面は航空写真を使用しているが、高さは概略で作成している。後段については、意見として承る。</p> <p>【市民B】 小金井ひろばについて、ひろばとして使用できるスペースはどのくらいか。</p> <p>【株式会社佐藤総合計画】 駐車場を含めたオープンスペースを小金井ひろばと呼んでいる。限られた敷地の中で、広くオープンスペースを取れるよう計画している。</p> <p>【市民C】 カフェは何人程度が入れる想定か。また、屋内に大きな空間を作り、市民に開放し、活動できる場を提供してほしい。</p> <p>【福祉会館等担当課長】 カフェについて、市民の方が気軽に立ち寄れるような場となるよう検討している。障がいのある方の働く場にもなるよう設置を計画しており、人数は、スペース的に20人程度になるものと想定している。</p> <p>【株式会社佐藤総合計画】 カフェで購入したものを1階のマルチスペースで、飲食できるような管理運営方法もできるものと考えている。庁舎と(仮称)新福祉会館を重ね合わせることで、コミュニケーションを活性化できると考えている。マルチスペースで、色々な活動を行うことを想定しており、カフェと一体で利用していただけるよう考えている。</p>				

**【市民B】**

庁舎と駐車場の間の広場は椅子を置くことは可能か。

**【株式会社佐藤総合計画】**

管理運営方法にもよるが、可能であると考え。人が集まるような空間になればいいと考えている。

**【市民D】**

配置計画について、日影を考えると庁舎を北側、(仮称)新福祉会館を東側に配置し、広場を南側に配置する検討は行っていないか。また、イメージパースは、季節、時間はいつを想定しているか。

**【株式会社佐藤総合計画】**

イメージパースは、イメージが伝わりやすくなるよう作成したものであることをご理解いただきたい。西側からの日射しを想定したものとなっているが、具体的な時期・時間等を設定しているわけではない。基本設計をとりまとめる際は、条件を設定し、作成したい。

配置について、本敷地は準工業地域であり、建築基準法の日影規制において、敷地から2m離れたところで2.5時間以上、敷地から10m離れたところで4時間以上の日影を作つてはいけないという基準があるため、北側に配置することはできない。また、既存清掃関連施設を残したまま、庁舎建設を行うことが前提となっているため、現行の配置で計画している。

**【公共施設マネジメント推進担当課長】**

既存清掃関連施設を残したまま、庁舎建設を行うことが市の方針となっている。また、日影規制も考慮した配置計画としている。

**【市民D】**

敷地の北側は、JR所有の土地以外の土地もあるのか。また、鉄道も日影規制の対象となるのか。

**【公共施設マネジメント推進担当課長】**

敷地境界の北側は全てJRの所有地である。鉄道敷については、日影規制の緩和規定があるが、高架については工作物であり、高架下に永続的に工作物を置かないという確約が取れば、緩和規定が受けられる。高架下の利用については、JR東日本八王子支社と継続的に協議を進めているところであるが、高架下の活用についても検討していると伺っている状況である。

**【株式会社佐藤総合計画】**

日影規制は、都市計画法の用途によって規制の条件が異なるため、エリアによって変わる。

**【市民A】**

現計画において、(仮称)新福祉会館の多目的室を含め、会議室や駐車場等はどのような検討をしているのか。

**【公共施設マネジメント推進担当課長】**

平成29年度に行った執務環境調査において、必要な執務面積、文書量、物品量等を算出し、庁舎と(仮称)新福祉会館で16,400㎡が適正面積であるとの調査結果を得ている。その上で、ユニバーサルレイアウトの工夫や共用部での削減等により面積を削減してきた。また、会議室は利用頻度の調査を行い、必要なサイズ、数を算出しており、現計画に落とし込んでいる。

駐車場は、現庁舎の駐車場台数と稼働率等を調べ、通常期の月平均で30%程度、繁忙期の時間帯によっては40%を超えるような状況を確認した。(仮称)新福祉会館の利用等を考慮すると、駐車台数は一定増えていくものと考えている。また、前面道路の交通渋滞を回避するためにも一定の駐車場台数は確保すべきと考え、設計者と協議し、現在の計画とした。

**【福祉会館等担当課長】**

旧福祉会館の集会室と公民館本館の学習室を合わせて11室あったが、(仮称)新福祉会館においても同数の計画をしており、面積的にもほぼ同じになる計画となっている。

**【市民A】**

地下駐車場の39台とはどのような考えか。

**【公共施設マネジメント推進担当課長】**

地下駐車場は、公用車の利用を考えている。現在、公用車削減の検討を進めており、それを見込んだ台数となっている。

**【市民A】**

臨時駐車場はどのような使い方になるのか。

**【公共施設マネジメント推進担当課長】**

臨時駐車場は、使用しないときはオープンスペースとして活用することを考えている。繁忙期等の利用状況に応じて駐車場に転用することを考えている。

**【市民B】**

広場を確保するためには、駐車場を減らし、バス等の公共機関の利用を促していくことも必要なのではないか。

**【市長】**

市域の中心部に位置し、徒歩、自転車、車等様々な移動手段で来ることが想定される。多種多様な交通アクセスが展開されると考えている。(仮称)新福祉会館があり、障害のある方等も利用することを考えた上で、駐車台数を検討してきている。併せて、コミュニティバスのルート見直しを行っており、庁舎建設予定地内に入れるようバス停の配置を計画している。交通アクセスの利便性を高めていきたい。公共機関の促進については、意見として承りたい。

**【市民C】**

トイレは洋式で利用しやすいように計画してほしい。

**【株式会社佐藤総合計画】**

トイレは全て洋式で考えている。個数については、空気調和・衛生工学会のデータを活用し、適正な数を設置する計画となっている。

**【公共施設マネジメント推進担当課長】**

各階に、だれでもトイレ(多目的トイレ)を設置する計画である。

**【市民B】**

庁舎と(仮称)新福祉会館の構造は異なっているが、強度に問題はないのか。また、庁舎と(仮称)新福祉会館の重なる部分はどのような設えとなるのか。

**【株式会社佐藤総合計画】**

庁舎は、発災時にも機能を維持しなければいけないため、免震構造としている。(仮称)新福祉会館は、耐震構造としている。免震構造はゴムの上に乗っているためゆっくり揺れ、耐震構造は地面の上に乗っているため、耐震性は確保されているが地面と同じ揺れ方をする。ふたつの建物の揺れ方が異なるため、免震構造と耐震構造の接している部分は60cmほどの空間を設けて、揺れの違いを解消する計画としている。建物が接している空間はエキスパンションジョイントというふたを設置することにより、活動には影響のないような計画としている。

**【市民B】**

転入者に対してごみの捨て方、処理方法等について普及啓発する必要があると考えるが、1階のマルチスペース等にごみの相談窓口のようなものを検討してほしい。

**【公共施設マネジメント推進担当課長】**

環境部からは環境啓発のための展示スペースの要望があり、4階で展開できる計画としている。マルチスペースについては、使い方を限定するものではないが、想定しているものは、時期的なものや申請受付等を考えている。いただいた意見は、担当課に伝える。

**【市民E】**

(仮称)新福祉会館は、旧福祉会館の畳の部屋で行っていた活動はできるのか。また、公共交通機関の利便性に配慮いただきたい。

**【福祉会館等担当課長】**

定期利用していた団体の優先利用や減免等については、今後、検討していく。部屋の大きさは、27㎡~142㎡の多目的室を計画しており、パーティションで区切り、必要に応じて、大きさの変えられる計画をしている。また、多くの方に利用いただけるよう、畳の部屋は考えていない。

**【市民D】**

環境計画について、実際に利用する職員がシステムを機能させていくことはできるのか。環境システムがどれだけ効率的であったかを検証できるようにしたほうがいい。

**【公共施設マネジメント推進担当課長】**

環境システムを使いこなさなければならないことは理解している。BEMS(ビルエネルギー管理システム)の導入を検討しており、日々の消費エネルギーや月や年単位での改善点の課題抽出として利用していくが、施設管理の委託業務の一部として行うなど検討を進めている。

**【市民D】**

南側に窓を増やし、働く職員が外を見ることができたほうがよいのではないかと。

**【株式会社佐藤総合計画】**

環境配慮の面から、エネルギーを使わない建物にしたいと考えている。エネルギーをなるべく使わなくてもよいように、空調によるエネルギーを多く使うことになる南側については、壁を主体とすることで、環境面に配慮した計画としている。また、プライバシーに配慮して壁を主体としたデザインとしているが、一部ガラスとし、光が入るように計画している。

**【市民B】**

太陽光発電の容量、蓄電池の規模、非常用発電機の位置は決まっているか。また、再生エネルギー100%については、どのように考えているか。BEMSに関しては、視覚化し、市民にも見えるように考えているか。

**【公共施設マネジメント推進担当課長】**

太陽光発電の容量は、協議中であるが、80kWを想定している。BEMSについては、視覚化する方法も含めて検討したい。

**【株式会社佐藤総合計画】**

非常用発電機は6階の東側に設置する計画としており、燃料は地面の下に配置する計画である。また、蓄電池は非常用発電機が作動するまでの範囲分での使用を考えている。

6 閉会

— 以上で、閉会 —

新庁舎・(仮称) 新福祉会館建設 基本設計市民説明会 (6回目)	日時	令和2年2月22日(土) 10:00~12:15	場所	萌え木ホール
説明者	西岡市長、高橋庁舎建設等担当部長、中谷福祉保健部長、今井公共施設マネジメント推進担当課長、前島福祉会館等担当課長			
事務局	企画政策課 渡辺主査、小林主任、萩野主任 地域福祉課 山口主査 (受託者) 株式会社佐藤総合計画			
参加者数	28人(うち市議会議員3人)			
次第	1 開会 2 市長挨拶 3 基本設計の経過報告について 4 基本設計(案)の説明について 5 質疑応答 6 閉会			
(進行: 渡辺主査)				
<p>1 開会</p> <p>2 市長挨拶 市長が、全景外観イメージ図について次のとおり発言した。 市報特集号並びに基本設計(案)に掲載している全景外観イメージ図において、実際の方角と異なる向きで影が表現されていた。閲覧いただいた皆様にご迷惑をおかけしたこと、お詫び申し上げます。現在、イメージ図の修正作業を行っており、正しい画像データの掲載が可能となり次第、市ホームページ上のデータについて順次更新する予定である。また、本日お示しするスライドは、修正したイメージ図である。今後の成果品の取りまとめに当たっては、細心の注意を払って取り組んでまいりたい。</p> <p>3 基本設計の経過報告について</p> <p>4 基本設計(案)の説明について 高橋庁舎建設等担当部長が3について説明を行った後、株式会社佐藤総合計画が4について説明を行った。</p> <p>5 質疑応答</p> <p><b>【市民A】</b> 駐輪場・駐輪場は、アクセスを含め、利用しやすくなることを望んでいるが、どのように台数を算出しているか。また、駐車場スペースが広く感じるが、暫定広場のような土のエリアがあってもよいのではないか。</p> <p><b>【公共施設マネジメント推進担当課長】</b> 駐輪場は、市民ワークショップやこがねいミーティングでの意見も踏まえ、現庁舎の駐輪場台数と稼働率等を調べ、通常期の月平均で30%程度、繁忙期の時間帯によっては40%を超えるような状況を確認した。稼働率や今後の繁忙期、(仮称)新福祉会館の利用等を考慮すると、駐輪台数は一定増えていくものと考えている。また、前面道路の交通渋滞を回避するためにも一定の駐輪場台数は確保すべきと考え、設計者と協議し、現在の計画とした。なお、公用車は削減する方向で検討している。 駐輪場は、基本計画では300台としていたが、武蔵野市を参考に延床面積45㎡ごとに1台で算出し、さらに、市民の利便性を加味し、400台と設定した。また、職員台数等現庁舎の使用状況を踏まえ、改めて実施設計期間で整理してまいりたい。</p> <p><b>【株式会社佐藤総合計画】</b> 駐輪場は、西側、北側、東側、南側からのアクセスを考え、各所に配置している。すべてをラック付きとする計画ではなく、子育て用の自転車等は平面の駐輪場の利用を想定している。こがねいミーティング等では、敷地内では、自転車は押して歩くといった意見をいただいております。駐輪場の利用も含め、ルール作りは今後検討する必要があると考えている。 土のエリアについて、庁舎は、災害時の活動拠点となるため、舗装は必要と考えているが、景観や透水性に配慮した舗装材を考えている。ただし、庁舎と(仮称)新福祉会館ができることにより、障がいのある方や高齢者等様々な人々が訪れるひろばとなるため、現状と同じ使い方は難しいと考えている。限られた敷地の中で、広くオープンスペースを取れるよう計画している。</p> <p><b>【市民B】</b> それぞれの駐輪場は、何台ずつ計画しているか。(仮称)新福祉会館に来館する方は敷地内を通れないと不便ではないか。</p>				

**【株式会社佐藤総合計画】**

駐輪場は全体で400台であり、西側に180台、北東側に180台、南東側に40台確保する計画としている。安全性を考慮した場合、敷地内を自転車を通り抜けるのは非常に危険である。西側から北東側へのルートは敷地外の高架側道を通して、北側からアクセスすることがよいと考えている。

**【市民C】**

小金井は美しい街であるべきだ。まちづくりや都市計画を踏まえ、小金井市全体を考えて、計画してほしい。

**【市長】**

庁舎建設は長い課題となっている。本庁舎の老朽化、分散状態、第二庁舎の賃借等様々な課題を解消するため、庁舎建設を実現していくことは、小金井市のために必要な判断と考えている。また、福祉会館は閉館・解体しており、早期に機能回復を図る必要がある。庁舎、(仮称)新福祉会館に保健センターを加え、市域の中央に、様々な市民が利用する複合施設として建設することを市の方針として示してきた。

新庁舎・(仮称)新福祉会館は、適切なメンテナンス、大規模修繕等を行い、耐用年数100年の建物としたいと考えており、長く市民の皆さんに使っていただく施設になると考えている。将来に必要な機能に柔軟に対応できる施設となるよう計画していく必要がある。

現在、庁舎への交通アクセスとして、コミュニティバスのルート見直しを行っている最中だが、設計では、庁舎建設予定地内に入れるようピロティにバス停の配置を計画している。交通アクセスの利便性を高めていきたい。

**【市民D】**

太陽光発電の容量、パッシブ手法による節電効果、LED等による設備投資と消費電力効果、エネルギー自給率はいかがか。

**【株式会社佐藤総合計画】**

太陽光発電の容量は、80kWを想定しており、庁舎の電力として使用することを考えている。全体の計画として、使用エネルギーをいかに減らすかという考え方で計画している。一番エネルギーを使用する設備は、空調であるが、一番影響があるのは西側の日射し、次が東側の日射しとなる。東西に長い敷地形状に建てる建物であることから、東西からの熱の影響は少なくなる。また、近隣建物のプライバシーの観点から、東西南面は、壁を主体としたデザインとすることで、断熱効率がよく、熱が建物に入りにくい計画としている。さらに、パッシブ手法等の導入を考えている。一般的な同規模の庁舎に比べ、40%程度はエネルギーが削減できると考えており、運用面の検討も踏まえ、将来的には50%のエネルギー削減を目指したいと考えている。エネルギーを使わない管理運用方法の検討が必要になるものと考えている。

**【市民E】**

電動車いす利用者に配慮したエレベーターとなっているか。防災拠点として使用する会議室について、転用ができるか。屋上にヘリポートの設置は検討しているか。

**【株式会社佐藤総合計画】**

エレベーターは、15人乗りで計画しており、車いすでも利用できる。ストレッチャーにも対応できるように、庁舎西側のエレベーターを大きくすることを検討している。災害時には、庁舎や地域安全課周辺の会議室等は、速やかに転用できるよう検討している。ヘリポートの設置は想定していない。

**【市民E】**

コミュニティバスについて、職員の通勤専用のピストン利用等、駅とバス停を直結させる考えはあるか。

**【市長】**

公共交通会議にてコミュニティバスのルート見直しを行っており、庁舎建設予定地内に入れるようバス停を計画しているが、職員用のピストン利用については、考えていない。

**【市民F】**

日影を考えると庁舎を北側、(仮称)新福祉会館を東側に配置し、広場を南側に作る検討は行っていないか。また、敷地の雨水浸透はどのような考えか。駐車場の災害時の転用を含め、オープンな広場として子どもの遊び場、憩いの場としての使い方を考えてほしい。

**【株式会社佐藤総合計画】**

配置について、既存清掃関連施設を残したまま、庁舎建設を行うことが前提となっており、一定の制約がある中での配置である。また、建築基準法の日影規制において、北側に建物を配置することはできない。

敷地内の地面に降った雨水は、浸透トレンチを通り、浸透させる計画としているが、最近のゲリラ豪雨等基準以上のオーバーフロー分は、敷地内に溜めることはできないため、緑中央通りの下水道本管に

流す計画としている。

広場について、限られた敷地の中で、必要な駐車台数を確保した上で、憩いの場となるスペースを考えてまいりたい。

**【市民G】**

駐輪場として計画している400台に職員用は含むのか。

**【公共施設マネジメント推進担当課長】**

400台には、職員用も含まれている。職員用として必要な台数、設置場所等のエリア区分については、実施設計の中で整理してまいりたい。

**【市民G】**

防災上、計画している自家発電の設備は問題ないか。また、(仮称)新福社会館で、屋内外で遊べるスペースは考えていないか。

**【株式会社佐藤総合計画】**

エネルギーは、電気、ガスといった複数のエネルギーで計画している。非常用発電も設置しているため、停電時にも機能維持ができるよう計画している。浸水等水害対策も考慮して、6階に電気設備等を設置している。

広場について、限られた敷地の中で、必要な駐車台数を確保した上で、憩いの場となるスペースを考えてまいりたい。また、こがねいミーティングでの意見を踏まえ、広場から屋上庭園に繋がる設えとしている。

**【市民H】**

清掃関連施設が残っている段階での駐車場はどのようにするのか。

**【公共施設マネジメント推進担当課長】**

具体的に確定しているわけではないが、外構整備が完成するまでの間は、仮設の駐車場の使用について、JR東日本八王子支社と継続的に協議をしている。必要な台数、時期、期間等が決まった段階で詳細な協議を行う予定である。

**【市民I】**

建物から電車が見えるのはメリットと思う。カフェの配置について、子どもたちが遊んでいる姿を見ながら楽しめ、多世代の方に子育てに関心が深まることに繋がる配置を考えていただきたい。

**【福社会館等担当課長】**

多目的室は、旧福社会館の公民館や集会施設を想定しており、子育て世代や高齢者等様々な市民が利用することを考えている。こうした利用から近くのカフェに繋がるよう配置を検討してきたものである。1階から3階まで吹き抜けにしており、様々な活動が見え、交流が生まれる場となると考えている。

**【株式会社佐藤総合計画】**

1階マルチスペースは様々な人が活動できるスペースとして想定している。マルチスペースでは、カフェや市民参画スペースの利用者が利用することも想定され、吹き抜けを介することで、1階から3階まで“見る見られる関係性”をつくり交流が図れる計画としている。

**【市長】**

複合化のメリットが生かされる利便性の高い施設を目指している。(仮称)新福社会館の屋上は、市民ワークショップでも意見をいただいております、子どもたちが遊べるような運営を考えていきたい。

**【市民K】**

外部から屋上庭園へのアクセスは階段だけでなくスロープも設置するのか。屋上庭園は何時まで利用可能なのか。

**【株式会社佐藤総合計画】**

屋上庭園への入り口は、外部階段を用いる方法と内部のエレベーターからアクセスする方法がある。車いすの方やベビーカーを利用する方はエレベーターを用いる計画としている。

**【福社会館等担当課長】**

福社会館は22時まで開館しているが、屋上庭園については今後の運営方法の中で検討していきたいと考えている。

**【市民L】**

高架下の工事中の安全性を確保してほしい。竣工後も安心して通行できるようにしてほしい。

**【公共施設マネジメント推進担当課長】**

関係部署と連携の上、安全対策を検討してまいりたい。

**【市民M】**

イメージパースの影は修正されたが、正しい修正とは思えない。詳細な季節、時期等を明示のうえ、正しく修正してほしい。

**【株式会社佐藤総合計画】**

イメージパースについては、今後、基本設計の取りまとめに向け、修正のうえ、再度、示させていただきたいと考えている。オープンスペース部分は日影になる部分があるので、季節や時間帯を示したイメージパースを提示させていただく。

**【市民N】**

概算費用に対し、借入金が何年で償還が終わり、市の所有となるのは何年後となるのか。

**【公共施設マネジメント推進担当課長】**

これまでの検討において、一定の財源計画に組み立ててきたが、今回の概算費用を踏まえた財源計画の作成までは至っていない。庁舎建設基金や一般財源をしっかりと試算したうえで、起債に頼る部分も必要となってくる。建設事業債は20年かけて償還するのが本市の通例となっている。来年度には、市全体の財政フレームを作成する中で適切に整理していきたいと考えている。なお、市の所有になるのは、起債の償還が終わる20年後ではなく、竣工後、引渡しを受けた時期になるものと認識している。

**【市民G】**

清掃関連施設の移転先は決まっているのか。

**【市長】**

不燃系の清掃関連施設の再整備を環境部で進めており、空き缶、ペットボトル処理施設は貫井北町の中間処理場に令和6年度中に移設することを計画している。

6 閉会

— 以上で、閉会 —